

## ▶ S-KYT研修(4時間コース)を実施して ◀

大分県臼杵市消防本部総務課  
総括課長代理 小野加寿男

### 1 はじめに

臼杵市は、九州の東の玄関口、大分県の東南部に位置し、豊予海峡方面へ楕円状に細長く延びた地形で、面積291平方キロメートル、人口約4万人の市です。

東は豊後水道に面した臼杵湾を臨み、南西部は鎮南山・姫岳など比較的険しい山稜が津久見市、佐伯市と接しています。河川は、野津川が南西部を東西に流れ、臼杵川・末広川・熊崎川が臼杵湾に注ぎ、これらの河川沿いには水田が、野津地域の北側には畑地が広がっています。

気象は、瀬戸内海型と南海型が混在し、年間平均気温は15～17度、平均降水量は1,500～1,800ミリメートルで、温暖多雨の自然環境に恵まれ、史跡を中心とした文化財が多く残され、城下町の街並みも歴史の古さも感じさせます。

1600年にはオランダ船リーフデ号が漂着し、三浦按針ゆかりの地でもあり、豊後水道に面したリアス式の海岸はアジ、サバ、タチウオそしてフグと豊富な水産資源に恵まれ、農業も盛んで水稻、路地や施設野菜、カボスなど多様な有機栽培等を行っています。

工業は醸造業、造船業、半導体などの優良な企業で基幹形成され、観光面では、年間約13万人の来場者を数える国宝臼杵石仏をはじめ、多くの観光施設を有し、食もふぐ料理を中心に多彩な料理を楽しめます。

### 2 連合消防団の概要

本市消防団は、平成17年1月1日に旧臼杵市と旧大野郡野津町の市町村合併により臼杵消防団、野津消防団で編制する1市2団の臼杵市連合消防団として誕生しました。



S-KYT研修の様子①

臼杵消防団の団本部(女性消防団員を含む)と15箇分団40部、野津消防団の団本部(ラッパ隊を含む)と5箇分団17部で、市民の方々が安心かつ安全な暮らしを維持できるよう各種消防団活動に努めています。

### 3 S-KYT研修(4時間コース)開催の経緯

多くの消防団員が殉職した東日本大震災を教訓に、大災害発生時に消防団員の命を守ることが、その後の災害活動において多くの命を救うことにつながり、地域の復旧・復興に欠かすことのできない存在であることを念頭に「消防団災害対応マニュアル」を定め、装備品についても計画的に配備しています。

しかし、平成27年4月1日現在、条例定数800名に対し実団員数は779名(充足率97.3%)、平均年齢は約41歳、平均経験年数約13年、入団5年以内の団員が約25%を占め、知識、技術を擁するベテラン団員の退団による若年化の傾向にあり、火災をはじめ、あらゆる危険が潜む各種災害現場において、ちょっとした気の緩みや過信により大怪我や命を失ったりすることのないよう、常に危険を予知できる感覚を身に付け行動するために、県消防協会や消防基金の御協力によりS-KYT研修を実施することとしました。



S-KYT研修の様子②（タッチ&コール）

#### 4 研修の様子

平成27年4月19日（日）白杵市消防本部研修室にて、平成27年度白杵市連合消防団新入団員辞令交付式後の午前10時からS-KYT研修（4時間コース）を開催しました。

当初、指導的立場にある部長以上の階級にある団員を対象としていましたが、会場の都合により、両団の部長及び副分団長55名が参加し、9班に分かれ実施しました。

なお、両団の団長、副団長及び分団長は、開会行事終了後、別室にて普通救命講習（3時間）を受講し、研修終盤の各班の発表を見学しました。

研修では、主任指導員の岡松弘明氏をはじめ5名の指導員の方々の指導のもと、指差し呼称、指差し唱和で確認行動を行い、タッチアンドコールで各班の一体感・連帯感を高めた後、イラストシートを用いて4ラウンド法による現状把握、本質追及、対策樹立、目標設定し、確認を班ごとに行い、その後1班から9班までそれぞれ作成したS-KYTレポートにより発表して頂きました。最後に「白杵市連合消防団ゼロ災でいこう ヨシ！」を参加者全員で指差し唱和し研修を締めくくりました。

#### 5 おわりに

これまで当市の消防団では、火災防ぎょなどの訓練は毎年行っていましたが、室内で座学を中心とする長時間の研修は、初めての試みで事務局としても不安がありました。

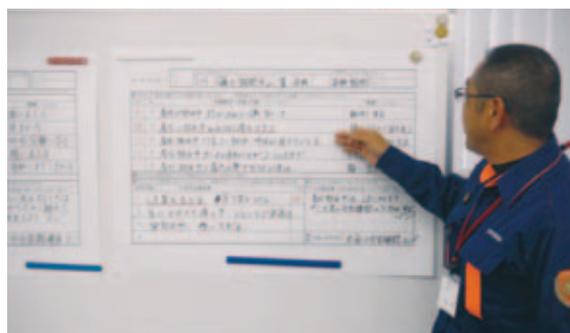
開会直後は、声も小さく遠慮がちでしたが、研修が進むにつれ堂々とまた、にこやかに各班で活発な意見を出し合い、それぞれ与えられた役割を果たしていました。

今回、白杵消防団、野津消防団幹部が一堂に会し開催したことで、各班内でそれぞれの団、分団及び部の活動状況など情報交換ができたことに加え、同じ立場にある幹部の交流の場となり横の連携強化に繋がりました。

参加者からは、「現場に潜む危険を再確認できた」、「確認作業の重要性を学んだ」、「貴重な体験ができ是非分団、部に持ち帰り実践したい」などのご意見を多く頂き、大変有意義な研修であったと確信しています。

引き続きあらゆる研修及び訓練に取り組み、「公務災害ゼロ」を継続して行きたいと考えています。

最後に、今回の研修開催にあたり消防団員等公務災害補償等共済基金企画課の皆様をはじめ、講師を務めていただいた指導員の方々に感謝申し上げます。



S-KYT研修の様子③（発表）